神事物語

七八

中村俊定文庫
文庫 18
1018
4

宮城県図書館

袖中抄第七

月部

二百八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中村俊定文庫

袖中抄第七

二四八

あらしさりあきのこころぬしをかりそめ[illegible]

二四八とそもそもいつをたく

顕昭文治元年ハ万葉にあらしと皆人まうしまゐれ

と侍りけれ共おもふ海くみしをと又二四八とらふ

あやまりつるにめ様とまもいりしきき

こゑをあれいつまれ二四八とうたうも

刑よりむやうあるへし二四八をうといつるやく

べきにとりふるやうハ文字のこゑ

といふてあるわかうつりあり八まハ三十一
字よあまりうこいあまたこのなかに
七文字の白八文字九文字あるまいあれと
六文字あるこうなり然をもつて八とそとよ
海と六文字ちかわいとれの或人ものいハ
ちうまつ後撰百首等之時撰ニ云等云
をもちうへまいあり為ちかさき歌
二四八ともあ清ちうきり歌
此歌ハうの古寄をよこうつ作まてこ歌等也
二四八の句丁淀色之由歌川流ち後作下

之時此歌をとうてあく
ちうあれもちていわやちふまかうさき寄
やちちよりへ歌ひとこ名ちうわ
とうふ寄を後へうあ作まて彼作ちまたう
うにまうこまちわ寄ちうやとそかう後れ
そ此二四八といふ事ハ中等もあうちうた
義もいとれ後とうの寄のこうきちもあ
小ちうふ〳〵ゆちわ
奥義抄云二四八ハ事歌人とく好或ハ宛
道のちうかちわうへうをこうとうきとて寄

二回八いとの神と言事やとあい新をだや
しふのらわとうふ八幡たくゆへるわ常おや
とふたくまあすすあつ寄ふとの神とわたう
とうまたとうわとうきうわ新くまとの神とわは
いう新くすやとふ新くたとわ市まてこの二ハと
まのたくふよとへくや川ふとふをとつ称
とよあうあ二回とうふるハたわハとうふいや川
とうふ字のとふるわてあくよ八幡とまむへ
きたわ二回八ちを尾川ふとふとあ新ちし
やたのとふちとみとの神とあ新ちかたう

ちくハたのものちゆくたんを絶へまを新くと
よめうとの神幡ふあとうふいあつとてうふ
たわ万葉よたとうたをとくみ三条大納言
寄にもたちうとわとくことよめうたをちうへまと
ハ万葉ハ八百よへまとうとあうみうちへ
ゆ寄のあくへうあうちとうふ義もとへまとて
もいうとうとゆふふ新ゆふふ新ちとハを尾うう
いをふ新くとよまう新ちうハ和ハ文百とうう
たう新て百よ返の義ハあゆくあうハ和組織書
云郭云ハ山をハてくハうとう新唐とすとうふこ

とあまりて山林よあくとくハこやこゝにたつくとは庭
きこゑのまや杉といひ忍といふ義前にまた清
なほよりいよいよおのつから祖先年に大和ゆゑん
生土友葉よ清にふあふかりしや待わしを
のやしハ友葉もひ家よ清にの義なをそ
やく穂も杉なへのあし
みなら人里ちに百千のへ里とふかくいたハ々百
とふ詞な穂も百千々百とおかり清のす代
いふなる人しとゑみのやとりふ色かくん

志なかとり井奈野

志なかとりゐなのをくれハありま山
ゆふきりたちぬ宿ハなくして
顕昭云この志なかとりとハ万葉に或云志長鳥
或ハ四長鳥井なとハ云居名居名ともかきて白康
なとかくハいひつゝしなかとりをゐなと云えるなとう
ともいひつゝし井なのとハ居名野ともかきたれ
ハ猪名野ともいひつゝしなかとり井
なのとハ許ありて白康なともかく猪名の
ともいふなきしなかとり井なのとハいひも
志なかとり井なのゝみなそこをよしとかれ

野りうきうわくいつかこと
今案よまものうとわ井かとうふ而名ケ人へ
いつ歌まつてさいたくうたの次の事と
う歌を物るくうよたくうたかいかの中
にあうとうまこうたもあうみあ歌えうまな
もあ歌をあやうしへうた
ううくうのうの問をうもたくうまし海きうくれ
ひううとうもたくうたの特のうとうとうてのこ
こそいうへまし
万葉長哥云　水長島（ミナカヨリ）　安房（アハ）より続うあの

さゆうとうとうあ殊名（クハナ）ハうこ
みあうとうわうあうたうたくうきうあうハ而名ハこ　ちあう
うう井かとうたくうあうきこ而るれうたうるうう
うあ而を歌うへうたうるう
又松芳云雄略天皇宮挙脚（ツ）端敦きこの故居名野より特し
たうこうをもう
うあ名物云井か野ハ特ふ玉まあう而如
井かのといりむうくうちかうとうハたくく
ふうこ代人ふ名物あうまあうくうあうるう

ところなんのえ家なる雄略天皇其野にしらく
独しなる御子志乃若かの語り語り
て井の志て いなたりなるれてひとえめたる
志なりとりしとる語る 白髪あり給しくのかきり
らく稚なとれていひ井かゝれとらハ井の志れ
なりなるれて云ひわとそ中にはくへるなる井
御よりわきぬ乃志る生の名なるれて志り
りわきぬ乃志りをもはしらくと稚し
志なりとわと人中人もあわきれてみくる
い清き道の野山よりは人金れぬんよりわきぬの

志りまん清らかにハ清らかなるあるらじ
れ云志なりとりのしと云和よまうし川伊康に
猪名野とりさてうらハさとひて世しそれもらく
万葉ハ文字をとり人へくとりくきさなるふとる比
給しらくこら御画し
又志なりとりをかりさぬまん志りをとるとらふて
志りなりしりとらふ画義のり井なかよりわきぬ
乃志りをされて井なのといえん事らに志
なりとりと八清らくといひさるをさこの船より
井むと御座るよ難せる事へ事なる如何いかさ

海のをしへ義とも申す給へるは面義なり結縁
平枕のをあらまほしきれと古ことはへつもくめるる
えあるはかなく初句
奥義抄云 あまき世のあり事也 雄略天皇の
ゆの野のくりつまし給ふあるさかのもと
をひとりくゐのもとにたちよりけま
えうのもとをあるとりゐのとふ白髪を
らりく然いたきのとふちわ
私云 俗歌あるいかるの歳のもとにかくれをる
とりひ清(キヨ)懸(スケ)いあるきりのもとをひとりおく

とりわ多数一六歌
縁起物云 あるとりこのとりとふ白髪紙のき
ゐのへとふ白髪
今云 万葉あまくこの弄清あるとりとりとり
きゐのふとりふ白髪とりふ
只あるとりとりとりふへきをあるとりとりいい
的しあるとそいふへ歌
みあるとりをうまきゐのもいとり
万葉 鳥とりふ文字きゐれもあるあり
とりとふいあまのい尾やたおりとりの

かるのとかふ綴ともいひ通へし
又縁語抄云頼綱朝臣ハ井のしたを志ちか
といふとそ
私云あしひきの山と続くる所歴しハ志るなり
なと続るとも云ふすや先に出る縁え家
家延よ清見かくのかまし続く所よりの志く
此百とわくるの名り小井乃志て井んなり
里名様にいふ百とも云やともに相係くのことも
りさ年とつかたわ神代わいひ続え入た
里とそ云

私云百首を志るしゝ事赤染又下野等之志るしゝり
とかくハ尚相ある義を志るしくれハあるらんと
因てこゝの其名をえらひさもいひかりしてみる
童蒙抄云志らかゝわ井手の名を云常陸なり
こむるむこり際さり郷
古来難義也さ深くの儀中に志るくるわ
とゝつるいかし
日本紀景行天皇四十年日本武尊（ヤマトタケノミコトスミニテハ）至（ル）信濃（ニ）
信濃（シナノ）ハ是国也山高（ク）谷幽（シ）翠嶺（ミドリノ）万重人
倚（ツヱツカヒテ）杖而難（ク）升（リ）馬頓（ナツミテ）轡而不進然（ニ）日本武

当遥遥千里飢之食於山中山神令苦主化
白鹿立於王前王異以一箇蒜弾白鹿則中眼
而殺之夏王忽失道不知出時白狗自来導
王之状隨狗而行之得山多濃吉備武彦自越出
而遇之先是度信濃坂者多得祈氣以殯
臥但須敦白鹿之後踰是山者嚼蒜塗人及
牛馬自不中祈氣也然者拓清丞有馬山者雖
非経濃坂雪降天失路心
白鹿とわかあらんきよわらとかあるよ
やうとあるかとかあり

私云ものうとわとかあるとて
教とへまれかまはうとわとかあるわ遥
業須須之下白もわ遥也
又日本紀云信濃坂只夕雪ちてとこ河と白
鹿の事称ふく歌しあり全不叶今奇歟
尺く海乃くうとかとかあるよ
頭脳云こ海乃くうとかあるかとかあるよ紀伊
国の熊野濃とのつりあとと伊勢国よりあると
ちうなり但こ海のへまうけきひとのこうへ法
ちうこ海　道系海つ宮柴

ちはやふるとこそきけはたゝく海のく
ちのて海ゆふくらしかくさ糸ん
今案するに此歌は海の千尋はふかくよみし歌
なるへしよのことは伊勢のうみやよ
伊勢の海のうしほのおもてのあらはされ
たかきいろもよみける歌なし又ゆふさく人こく
りくもとめつ糸あはれしくよみたりとも
是はおもし
後拾遺云　三条院の御時大嘗会悠紀方御屏風に
あふみのくにのみかみの山をよめる大原よ

すへらきのわか井のあ海のあま糸手をくり
ちとせ　　伊勢大輔
よろつよとよはふこゑそきこゆなる
をしほの山のこゆきのおもかけし
也し
をしほ山こすゑもみえすふるゆきの
ちやとつらきこのゆきのちりわたり
松の大原よもむらさきに小山さへ見えて大原
をしほの山を西山おほかたの秋のいろかな
とかや

あまてらす大神宮のをしへにしたがひてこれをあらためしとそ
社人菊氏は氏神やつみ古今云二条后乃まつり春宮
のこゝろとゝところとまうしまつりしきよ大原野
ゆ屋しろへまつりてきろ時業平ろよめろ哥
神代にこそかゝりひろ先
二条后も菊氏るれて氏神へまつりて給つるを
ゆまてをしへのゆをあ山とおほしたるやうに
ろ所大原野ゆ西を小乃大原へうつしてゆまつろハ

御事ゆいひ伝へしを神代大物ゆ給つ
ゆへ通縁ゆの物語ゆ事ゆまつりあ事を
ゆきろうあろん　又物語ゆ不審く
ゆまゆ大原ゆろ河ゆ付くかゆろ歌也
ゆるゆゆまゆ只大原ゆゆゆ海ゆをゆ
乃山ゆゆゆもへゆゆゆ古人ゆあれろゆ
ろろろ不法法歌
或古書云ろのゆ海ゆゆゆゆゆ海へゆ
ゆゆゆよゆろゆゆゆ海へゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ

倭姫物云ふ所ゆかいたせ紙をにあらず草
ぬ海よりあつまりたる葉乃ちくさ称あり
なりあつまる海乃ちを紀伊国ぬ海乃くさを
云へ
童子部物云ふ ち海ゆかくふ海乃ちを海
よりあつまるへくらさのうハゆんうくあるくさ
なり物ちるへこのちを海乃紙をこれ人紀伊国
ぬ熊野浦とちまちちをい伊勢にく
海ちをうくらを浦ゆんあるへ又ち海乃
うくとつふ大宮乃時ハくらあり伊せむ

物よ伊勢ぬ海乃くさへちを海ゆかを
ぬくちを
私云ち海ゆかい葉ぬちさ形ちをなちあり
かさ形ちるあるて八へくもくさへくもむ
るあちをぬちさ海へくこ
ちあるき
ふくちをくのあさちをぬまのちをれちつく
ちくちを人ちいくちをやなくて
熊国ち寄物云ちくちをいちを紙ちかをとこれ
ちを花ちつくとちかを

無石物云うけこしつるいあと紙ゑのやうゑん
ものを而乃名も而よまこうひくかれるの
伊勢よあ〜といと海れさこつうあとくう
陸奥よこをとうつうとつうるあらあ月谷日にも
人ゆゑ家よあやめ紙をあうてうけこ枕きて
ここ紙うあく形ら後あまいむう〜昌蒲の
あうあ所と終こうき終〜このこついあさうゑん
ぬまにあやめ紙ゑめ所いひうあわこもまこし
作者〜
私云加六条左京亮乃あうこ終〜へ橋為仲

う任肥后守藏房の下向ゑく寿牧こものこ
まこ〜々所よ陸奥こ昌蒲なこ〜あ月あ日よ
いうこ枕ゑこく紙ゑむあくこいひ家ろ
なち而郁芳門流ゑ根合よ菖蒲ゑうあ
あやめ草ひくこあもあゆくあき終ゑ
いうくあこうけゑまこにわひ家ん
ひ家ゑ別難ゑこく特ゑなちゑ又伊勢へ今乗
年ゑ河こここ〜ひべりしか
江記ゑ右ゑ人こ濃家沼間左陸奥自京一
月路や不可達今日事二而引こ昌蒲宣貴

損歌

山雖つくべし家稀と刺名は奇へあるとぬま
ゆとせて根をはひくるあるものくあるとよ
乃ゝ所事ゝあるひゝ所あゝ地ゝ稀ゝもすゝゝ
めゝゝゝ稀ゝ物事ゝく
刺名岩人能知地雑湾奥昌蒲ゝ雑ハ不
お系歌

常ゝ家物ゝあ乃密ゝ風俗あゝゝゝゝゝ
あゝ稀ゝゝゝゝゝあやめ乃なゝゝ家れゝ
ゝ月ゝ日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

物為仲任よゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くるわたくさんあるうちにてこれ方の中ねの時
ちかくなるあるべし
彼国ゆくさきこれ事あれわれ
も信長（シナノ）より今年乃こと成りくみちよ
くるまをたくわくあきそむをほり
あとうたくやあり日の事よハあしくそれを
昌蒲をそなきこるなたもハ宮殿（ナイキ）師
緬ねたの後ハ湾奥（ワン）ゆくと白せる人也
堰事（ナル）欲下信このくあきをかく
ゆくまふくわあくく威房（モリフサ）ゆくくるわ房ゆ

但つの中ねハうちゆくあこくくの奇観
ゆくあよ中ねくゆ但乃（テ）湾奥中ね
さくんなる稜を昌蒲なくハあきうのぬまのゆ
くゆをくくまくくん任あんあくく
金吾（キンレイゴ）ねまう合戦ゆくく興中数く水驛を
又彼国ゆく断（ダン）書（シル）早文（ソウブン）乃（テ）遠恨然る数奇の名
をくくむくやさくき事也又百業よいこと
よめの奇ハあり乃くくとよあるくくハくく
形
をくく形へくくくくよねくくくく形くく

秋もしらぬものをもしるの那し
綺語抄云もゆる火のことはふりたるもいふ文ことを
乃たまはりしもいへり散木集云たゆらぬこと
以ふかくしはかる人まれにこそありけれといふよ
いふこともあるまじきことはなれどもしるへしと
志らすやはいふまじきことなれどあなかしこよ
物まなびの話
志らさ乃あさ毎海はにかりそむとよめる
かゝることありしを志らぬ事なり
今云あしのことふかくハ我のまとす

梅しきみたな話さえ
さ梅らくハ毎海をまにこゝろあふかくハ
梅しの事り孫乃たな話さハまだしく
顕昭云梅しなるさハしハ梅しの梅海乃み孫よ
以まれくハね根さたろさハありそのみとえ
とれ朝しくかわと水氣とれ和しく雨らの
かり火もしくあまの我のかたをとゆ○よみえ
すゆまて鳴澤(ナルサハ)とハしとて
ゆきてこの万葉乃事ハ孫つるとハ東海乃を
あわたし志りしたらあふるとハ都風す話さハ

まん延うよ渡みなわとよめり
あまた所の家人中にもまんたの院さしよ海もてうち歌
いうとゆし後きうぬ廣言とまをしけるに
のあまはたれ成さいすへ成たれ成ちかくいせし
もしの波海よりいさあうとあわるのふる後
ふ後鳴ナルサ波とうぬとまをしかと梅せかちうさ
いうふ万葉乃寿よ女のうわ又たれいさこ後く
いまよ念りかんハうふ色ゆきそかくとしかしいと
もあ後え及ひくなるえハひの事よみく
くらとゆき後く所くそうけ後わし

後數船と清経ち長かく紅葉をせくきれ
あり梅とみえうさいり世あしく君よりくり世中の
かうしよのわりく
清ヅ守モリ国基モト之子小家カキ基とまをしける丸
ま所ゞへくく所人り清ら寺
梅もの移乃平井たわ花志とまくく
たうさけ乃水にぬゆるとぞ云ふ
公実ハ遂ニ基後ニ寿ニ云
かさわあ後くふの多め移よ之所さいの
ものれく里にかまさ清しあや

万葉云
海の神をめしてくらをかをきしくらの神をくい
ぬきの神の神名をうしはのこと
又一云
あしくらをかをきをもつくらいの
のたうのようのゆきかたらやく
和云武安寺一ハいぬきの神をうしはの事をて
うつわらをきことをかさつてをかさよ
ひへうしん
童子をかぶ物云 うつさたこハ市ハ丸屋海ちうへ

よあわ作のかあつ神くをくをあくせあるう
さあくくてくんとうあうあくいあ海ちん
をさうあくくあうくくいさんのあくよ
あしすくくうあうたわ
宮ちくハ神の名代くをを
古老傳云山ハ神ハ濃ちん大神くをハ
いくくきのようかを地一里ばり中ハ尖ハ所あくく
神ちくくくくうあくくあくきのうくこう
神池あう池ちんあう石ハ大石あう石神あやくく
てうくくくを神くくうのあくくうのあくきの

あらはれたる氣あわうの色純美にして成
みまうて湯のあらはれとなりて
のうへあへ雲小燈火のあらはれ　宿雲
きえんとしてあらはれ
海くもりしてあらはれ白波ふんあらはれ
廣言うたがきこの義をこのあらはれてあらはれ白波
のんあらはれのるあらはれあらはれ海
うへうへやき
ひうへ野うへうへ海うへやこ海うへくはと
のうへきうへれうへめくふまう

顯如云うへ色うへやきうへ孝日中紀云時天祥
冬石而トス合之河云今此云冬石是何石
卒若云是トス之猶也上古之時殊用龜甲
只以鹿肩骨而用也謂之冬石又河云山海
草木皆是二神之所生也而未見產禽
獸文然則此鹿何時始生卒若云今如此
文不詳禽獸物育之時而下文又省鵠鴿
者蓋是自然生育歟未詳其始之已上云
望後也

奥義抄云云亀甲の冬トとうへ事

わりゝ旅の民のこゝろもいとゞ哀なるに
ゆくすえもさくらのみなわかれなれば
春の月のかゝるを見きくにつけても
あり所百葉云むさしのゝふるさと哀
或抱月行くのこゝろひとの春のかゝるをあはれ
しらぬ人もなかりけるまゝ
江都繁華云こゝやまのいまゝぐしたるこゝ
らけくうこぬく花の色きこゆなりく
よめわらひしやうきやうのかゝるを
こゝろくやきいくこゝろあるこゝろや

杉武書云こゝ山の清しひあるそこゝろぬく
しらとゝはこゝいろ天和ゆゑ梅えをきの明神の
春しるしわいろの春ゆくあくまこゝ
毎所しくむ豆さよあはこゝのとる事こゝや
みあくのこゝひとのあのこゝ所屋くらこゝくよ
春のこゝのかゝをいこゝの本こゝくやきこゝ
ゆかこゝのこゝ所ゆきくこゝあこゝ人こ
こゝこゝしし
童蒙抄云こゝくこゝむし天昭太
祇あの伊こゝ所こゝあきひくめゆんの

いとやすらかにわかるまゝに所々黒髪(カミ)山の紙
ぬくくハうりくれくゝあづりくゝ夫婦(ヲトヽ)山の条
をいとなみうゝ呂ゝへあるそのゝゝ紙ぬさく
ゝ紙ハゝ紙ゝ所々にわくゝわれたゝこ山ゆんまさゝ
来を祭らゝむもゝあるのくゝのゝわゝやさ
てゝの天社のいて海をゝこゝ紙ゝゝゝをゝ
ゝゝの海ハゝわゝるひくゝいゝをくゝ
ひゝ義のいてまゝきい海のゝたゝのめれゝゝ紙
をゝ井ゝあわゝ秦見(ハタミ)古語拾遺(コゴシウイ)彼(カヽ)ゝ昌
の社をゝの上(カミ)郡氏(ノヽウヂ)を祖やゝ社ゝうゝこ

やゝ海ハゝゝゝにあるゝかゝわハゝゝとハ名ゝやゝと
のゝとわ社(カリヽ)ゝ来ゝゝみゝゝあわゝゝこ屋海
ハ天社ゝゝあわゝ日ゝ社ゝハゝ山ゝゝあ海わゝ
あゝくゝ天音ゝゝ社ゝ天音ゝ山ゝゝゝ
ゝゝくゝあわ
社ゝゝの社等ゝゝ不庭奥義物ゝ江都(ト)書
寄ゝゝ(上カ)傳書ゝゝとゝゝわゝ河紙ゝゝ社ゝゝ
ゝゝゝとゝ多ゝ物ゝゝあゝゝゝ文ゝ書ゝゝ
笛吹明神事ゝ文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
文童蒙抄要見(ト)古語拾遺ゝゝ河紙

系のかとりハ後このくしかの事ハ不
見歟
又天ゐんとこ山天よりあわとゝ事ハ何
又日本紀ハ天ゐん書来事ハ何
万葉或云天香山或云天香具山或云天原具
山也又新撰字云亀トよ五地ゝ云事ハ高市
にゝあめの字ハ入ゝ云字ハ紙事ゝゝ仲山天ハ
仁寛寄ゝ
そゝひよちゝ
あめといまるいきとうあり

そゝひとゝ来桃史ゝもゝきゝあく桃桃
ゝもゝきゝもゝあめゝハあゝゝ事あわ和字
をゝゝ事ゝ
ゝあゐゐゝゝ紙ゝゝあゐゐゝ海をゝゝもよゐゐゝ
仲時ゝ寄云
ゐゐゝゝ称ゐゐゐれまゝゝ紙ゝゝゝ
ゝあめあひゝゝゝわゝきゝそゝわき
又万葉寄云ゝゝゝゐゐゐのゝまゝゝ
ゝゝゝゝゝ来ゝゝ紙あひゝゝあゝゝゝ
同長寄云ゝゝゐゐゐ神ゝまくゐト部

[illegible]

又考日本紀云 保食神響海則鱠廣鱠

狭[サモ]自口出鷄山則毛[ノアラモノケノニコモノ]麻毛菓[ムメ]口出又死

後項紀[illegible]牛馬云此等畜獸生[スル]初欤

[illegible]

あさまつ紀云[illegible]

[illegible]

顯昭云趙[illegible]日本紀注云

湯津爪搔[ユツノツマクシ]師説湯[ユハ]是喫齋之義也今云

由況者是湯之義也云[illegible]者是其次也

然則湯者云併波此[ヒキ]又与麻波留之詞

也津者是語助也故天津水皆是也問云

今此云爪搔与下文捜[ツクヘクシ]女爪搔者同欤

異欤答云菓古事記云刺[サス]石之清[ヒヨ]豆良[ラ]

湯津[ツノツ]々間搔之男柱一箇取開也下文云

刺其石御[ミ]豆良之湯津々間搔取開白

投弟[オモ]然則左右別此文雖不見白猶可[illegible]

彼文也

今付之菓之湯津爪搔名可[illegible]日本紀注

欤然白或人云湯津[ツ]搔[カキ]求[illegible]

清きれてのみくゝ清めハ書乃義次
稲田姫よりとあゝ猪清めあゝくゝふハ猪ゆゑ
清まゝ目出度よりゆゑ
あゝ
然る日本紀云望うゝ清のまくゝあくゝの所角て
奥義抄云同云抄ゆゑ清まくゝふハくゝよりて
とて若云日本紀云蓑義爲ゆゑんとて天
より 安置ゝ安ゝくゝ時 哭清のくゝ
あゝくゝあゝひゆゑハ二人ゆゑ光義光妻あゝ
ひゝ女をくゝくゝ乳あくゝ問ての

あまゝくゝ涙あんくゝ哭くゝいくゝくゝ乳
この女ゝ結ゝ腫ゝ乳と号書ハ手腫ゝ乳
と号此女ハ名ゝ迦奇稲田姫と号ゝ
ゝこゝ八人あゝくゝ年あくゝ八波大蛇ゝあゝ
とて乳この小女ゝ乃ゝまゝくゝ哭と
号ゝ名ゝくゝむとあくゝ哭と
や若いくゝあくゝまゝくゝん名くゝあくゝ衆
湯津爪櫛ゝ乳櫛よりあくゝ櫛よりゝ
くゝ問云あくゝこの所くゝ衆清くゝ
にくゝあくゝあくゝあくゝ櫛くゝ入

菅公様よりわしこて蛇よこ飛してたれ
まや清まくまつりきる梅乃おりつとし俘りて
あるにして因縁ある色志こめりおのれて本くまら
ものゝもちふくる梅とあるわ清まるもとと
まいてくらまとうの名義とぞこめ紙ひさうて
久わぬよのくる名きとありしこめハ鬼やみなこ
とにあくろめくまつらでむとありしるを
されとも梅なの義をわりて梅あり梅なる
群行の時帝梅なる乃清ひさひよ様をなし
てのつまりつこやこのうにあつくつり給ふ

乞ハこの義なと気とこてやめるふ故右衛門右府
乃梅揃小みくくあろとしそ得行中庸立てれ
帝王菅家梅を云　すさのをのみことにそ
紀云此梅引載日本紀ニ別事之紛略不書之
又云ともなれとハ紀に書るうわちょうこと也
とふんともあとそちる梅なる紛らよハ梅なる
様をさし給ふ帝王ハいますこ所あ歳えるなる
まろし小丸形にあるとのこ清くよりあ
まハ次男之相模道頼
又春後徳寺云　くりん種とる緒ととり

貴日記にこの物語の出でたる事
を八法性寺殿の御合に源氏の後撰判に撰
出されまゝとこれを世にいふなる
ひめよあひそめしより時よりのつゝみ
紙にかゝれ侍りけるとぞ海人
物語にそれあひのまゝにうんぬんゆゑ
宋朝よりこれまゝにあきびまとこれあるに
世人これ事也云々
私云ひ寄よ無不審歟日本紀云素戔嗚
尊勅曰若根国海當入奉者耶對曰逐勅

奉矣故素戔嗚尊号立紀奇稲田姫為湯
津杭樹白髭神おの御時云々
必無之者いかゝ

[illegible]

又日本紀云伊弉諾尊追伊弉冊尊入黄泉
而及之共語時伊弉冊尊曰吾夫君尊何
來之晚也吾已喰泉之竈雖然吾當寢
息清勿視之伊弉諾尊不極法而湯津
枝挂牽折其雄柱以為秉炬而見之者則膿
沸虫流今世人夜忌一灯之火又夜忌櫛

櫛此其緒

このてりいい
[illegible]
顕昭云このてりいとは神代紀哥にいとは
このてりとうたひてそうたふ
古哥云をとりうたふみかきひくよ神山のこすゑ
このてりいとは児乃ものかたりをうたふ

又或は葉物をこのてゝと物ゝこゝにひゝこゝた
まへるゆへ人もいろ海くゝのもとく
ちりうこうるを宗うゝ祇永朝臣の大和ゆく
ゝちきゆよ祭良海ゆゝゝめくゝちゝさし
なのいゝゝく物ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆくゝくゝゝゝこゝてゝいゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝく馬をゝめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
このゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝよゝこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わかれくよりハやすらてゆくめくらくもの
打くこたをこゑれちかまかひうれ
あらし大和歌の風俗ゆく物かちらをこのて
うつりい筆ハひさ入りけれやまのこのて
うたがひ歌につきて作らりくく格調と
万葉より下總淡人歌云
ちゝの實このくかゆゑのかりて秘と
あやまれことをならくたりこそ無
此歌よハ兒(コノテ)とハく称とをそよ下總の淡
人の撰也千葉井ハ様國よおりとき野の柏(カシハ)

なり大和歌の風俗を下總淡人ハ不審の論歟
又あさかおもくるかいふ家も柏よハあらわおり
おかしらゆくハいりくと寿ちゆ兒女んよふまさ
またりとゆゑく女思ふ几重しくめり
奥義抄云或抄よハをとこゑ人の異名なるわ
とゆゑのとあるまてもいらさへて世と
此集乃詞を續後(ヤサシ)人(ヒトリ)歌とをかわとなも
歌の云もなをさふへしとみて寸
童蒙抄云兒女柏(カシハ)とうそわれをぬきさ人
あらてかくふちぬささをいふるへし文

このそうしちのかくもは神とともにあつかはしまると
ゐなかをいふ也
ちかのぬまは野といふ也
河進士を成清郷云このそうしやうには菅相の
尚本に記さるゝゆゑをいふ也
熱着四月神祭には物たちわ
ことは本にいふ也新行は録事より御事之
わたく申といふかくしといふく
ひさ義いまだされなく

袖中抄第八　目録

えぞがすみかの山　　とよはた雲とわ
まつらさよ姫ひれふりの峯　　物月杉そとわ
宇治乃はしひめ　　きよみがせきのとし
くもゐとぶらもひとら常

袖中抄第八

さ緑あのよのなかの山

さゆあのよの嶺の山よりいつる月ともなし

なくしかんと松をふく風の音をしらす

顕昭云さ緑あのよのなか山とハいよの山を

大和国よこそ伝へさ緑あのなかにある人のいひし

さ緑あのよの山とハ東にある人の心あらは

あふみのせかく姫きよきといひなんとて

さ緑あのなかの山よりあらはれたるよ

なくしきと流れて越のうみに川あり

なるんうの山よりあるとうんまいをもつ穂ゐるんや
とあるうの海のあるなるなるあるあるあ

み芳日蔵僧云天竺備中國 襲(ニ)鐵圍(ニ)花集
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
奥義抄云ひのもとの[illegible]
[illegible]部(ぶり)[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふもり瀧潭ハ今まで瀧潭ニ入あるなり
てんぐんよりとうぶ
ゑひのこと
なすり盤こと
いすゝくらあわくまふぶこと
顯昭云こと百乃こと
あわ一ふをゝ光明寺ひ一ふ光明
乃杜と云義ゆうち海ゆくハ盤ゆハ人ゆ
ハその人ゆふぶむ毋きれこと
と毋こていこと神ゆれ杜ゆ墓をぶこハ

ここハ杜よゆ云ゆハ毋ゆ毋くゆこハ
いこゆくすゆ盤をゆゆらひくわゆ
毋こゆ神ゆをいこ見くいこゆ奥義
物ゆ迫考云普通義ゆこと百ゆ杜いくこ
よゆわ毋杜ゆ事ゆ不審但寛
年清晴春日詣こ時大和寺忠房 献云云
ゆふぶむこ毋ゆこ毋ハ
こゆやゆ所と知こむ毋杜ゆぶゆ
こと洋不覚ゆ盤ゆ杜こきゆハこゆ
私考云忠房ぶ毋杜ゆをゆくまゆこゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

量輝之ものと量次麁上撫爛之し國めくも
あり
國史に天智天皇三年於對馬壱岐筑前
等置防与烽　和銅六年正月發丹波
烽始置云是及大和國春日烽以通平城
也
延歴十五年山城大和両国相接便宜置彼
烽燧
又紀国名所に云肥前國らふもの里乃畧
又万葉集にも

いこま山らふひろく海すそ山ら海すそ山ら日うつくしと
ふ山ら海すそ山ら海すそ山ら日うつくしと
又加六条左京北あもちと云女乃をとこへ書と
云云
いこま路ん山ふ雲もいまのはあるくもひの
雲まかよしあるあもちし海原
色ハ物ほ乃と海と淡海乃いとやと云ふと
波めくあるよ淡海へ海いとやきの後船のる
くれとも海のうらあくあ央をあくなもろれよ
あもちのいとやと海よ央をうたくあも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふん鈔奥義物云むりハあるとかたる
ゆのとく人の事中あまりて一ぢとかの物ハさかりの火をも
あるくなれて次第よりはさかりあるを物をちらく
ふるさむるをもの一日のうちよりあるなりの所なり
をもをもを海をもるものをとふ火乃ちるもとをも
ひとふひとをもをあるるもるあるおこまるあるなり日
中記よりんくるあり
童蒙物云むりるあるよりるせる時火
なるあるの芸をかんをねあるるあるるくさ
をうりまるて次第よりをるるるるる一月よ

めりるを物と一日よりるる童蒙物云ふ
むりるるの京乃ときあるりるるるき
あるんとせるるるのとふひをあけあるり
ふひるする蛭をあるるるるるく海るる人
をるきあるるるさるるるるるるなる
山乃るるるるるるるるるるるるる何帝
乃河るるるるるるるるるるるるる
まるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる

頸脚云まつらかたのよひめい大伴佐提比古良
麁なるわかれをしかなしみて松浦佐用姫
あまのつまこをまつらかたのよひめ
山よりかわらくをまつらかたのよひめ
をしかわこれをひきわかれこいしなくらん
八つのときふるあり
万葉集巻五大伴佐提比古良子時値詔
命奉使漢国艤棹言帰攀折松浦妾也
松浦佐用嬪面嗟別易歌一首
登高山之頂遥望離去之船悵然断肝
黯然銷魂別字也
流涕因号此山曰領巾麁之嶺乃作寄曰
万代に語り継がんまつらかたのよひめ

後追加

うなばらのおきのみちをはるばるとこえてやゆく
君を思ふ

敷布松浦寄

まつらかたさよひめがこころをもちて
山のなかにやまをこえてゆくらん
をとこをしまつらかたのよひめ

元年ニ高麗きたりてまつる山

天平二年十二月六日遠江国ニ山上憶良

遣上

私考帝皇系圖云欽明天皇廿三年壬午

八月遣使新羅大使大伴狛手彦連領敏

十万兵十一月新羅貢調云

又考肥前国風土記云昔武小廣国押楯天

皇之世大伴狛手彦連渡百濟之時到此村

云云

又考遣唐使大伴宿禰佐手麿記云天平

勝寶元年四月二日進發同二年九月廿四日

還著紀伊国云云

今案二万葉ニ載大伴佐比古大伴佐手

麿ト同異如何さてひこは天平二年以前なり

さて九は天平勝寶元年也帝皇系圖云

欽明帝廿三年遣新羅肥前風土記ニハ宣化帝

廿三年百濟さてまゐる遣唐使云云

皇系記云肥前国風土記ニ曰昔武小廣国押

楯天皇之世大伴狛手彦連往那国を

治めゐ給ふ百濟乃国をもくひしりあめり

こゝをもてかのをうけ給りて山村にいてゝかへるを
もち篠原村茅月姫子を娶て流を船へり
勝ゝ月別雲日境をとらゝ婦よりゝ婦を
うまこの乃船ひをいてきゝゝわうをとゝ
あゝゝとゝゝ月をゝゝゝ月よりゝ月ゝ
あゝをゝゝ月乃ゝゝゝゝ狩長を称をいゝ
ゝゝゝゝ月姫子あゝこのゝゝゝゝ
をゝゝゝゝまゝ称ゝこの船へゝゝゝ
ゝねゝいゝゝゝゝ狩手長連事をゝゝ
あまゝゝゝゝ

又筑前國風土記ゝゝゝゝ海乃石ゝ
狩手長連舟よのゝゝゝ海よりゝゝゝ
ゝ家ゝゝゝゝゝ石勝狩ゝゝゝ
ゝ舟乃船ゝゝゝ海神乃ゝゝゝ神
ゝゝゝゝ狩手長連ゝゝゝ船
嵩郡古君をゝゝゝゝゝ
ゝ時長連妻とゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝのゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つまくろわとうをうら

奥義抄云うかたうの浦に海ひをとる

和云とも須万葉をあらをきをうたく別日記

加不書之

初瀬おとうら

うらかとぶ初瀬おとうら此海さくうり出

きこ海さ海云をあらくうたう

顕昭云此哥ハ万葉集東歌不知國哥也古書云

あつまさかいよりあつまの國の哥を集をは

初瀬おとうらとうたふなりとあらひきてるし

とうを此はくうらひと　ふねかおとうらをいはく

うらをうら海さてよ出とハ海さてとうをうらを

てとうら海はの須ものくうら神の須しあるくと

いふ云あ川ハ須恵人をあつとうをハあること

いふるわこいこうやとう須とうハ須乃明しうとそ

神も須恵人すを形わうとうは乃須恵をそにく

うを人あるうを人恵をうるあるとうあ川山ハ神をを

も神乃とよあるうをて鳥のあるくとうくをを

あるくと形くとうやとれひきてるうれも和

かきうきてるれとうくあ川和おとうとハ

[illegible]と云須也き[illegible]字書り
し洲鴨食[illegible]
万葉浦島子云
[illegible]
[illegible]
[illegible]と云須也
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちあわさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

おもひなす鳥の鳥乃一名や

異義物云ひさせる説又もんし説鳥と

文中に貪鳥合之解今とくとくあれ中よ

あ孫貪欲（トン ヨク）ゝ非常ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

しあれとうくゝ人ゝ海ゝ

人ゝ所ゝ集小ゝ現人（ウツシヒト）ゝ

今云物大皆同云名物不事之但考日本異

異記云ゝ鳥乃雉鳥乃死ゝ所ゝ

ゝ紙ゝ所ゝ

打ゝ

碁乃橋（セノ） 碁乃橋しくゝ乃碁盤の御碁ゝ

ゝ橋ゝ浄土（ジヤウト）ゝ生所ゝ

せゝ所ゝ所ゝ

碁乃ゝ

かゝ所ゝ

ゝ所ゝ

ゝ

ゝ道ゝ所ゝ

この所ゝ

和泉国橋ゝ伊勢乃郡国ゝ

この所ゝ人ゝ

宮浦乃たゝひ処

ちはやぶるうちなびけるひあるかをゝて

あかつきはかをふとゝ[illegible]

頭取云うちたんたゝひあとゝ姫大明神とゝ宮

浦乃橋下小船をひ[illegible]やとゝ神のりて

へ離宮とゝ神[illegible]毎年かゝひ[illegible]

給時ゝ[illegible]

乃初ひ[illegible]

[illegible]

乃とゝへ[illegible]晦夜[illegible]

をゝのうゝハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

とねりゆきなが橋を孝徳天皇御時大化二年
道賀和尚姫を告い祈ばわれを海とと
久しく祈りく坂姫をく宇治乃橋ひめよかしひ
給とかさむ者とも相思ひ給へ祈〳〵但おとよみい
うちの海ひめと宇治乃橋の姫とうを生る者
まりさきこのおとゝ人もあわあるゝ
奥義物云さむ中ろよおうときあるひとやや
まれをまつとん宇治乃とうひめ
ひあい橋姫(ハシヒメ)乃物語とう物のあわむ〳〵書二
人とうとゝ所相とうとわの書れ法とうしく

なをいとこの光を祈ひとゝ所とあるうとうへ
物さとく彩生よとう祈とうせにろとりの
めるつ称わわ者の所猛とを海へる所りりう
海とうあわきゝ所よをの法とこのわとこう
わひあ言わひあをとうひくうへう者のとれ
里々所なりさとくあるのあるる海ういひく時を
うせあこのあ祈りくとうよとわいとのあひまと
雪とくあ乃とくあひ男をまつよみひあ
をとうひくさ言まれを海をハわとひいてを
とのあ祈とうあとと祈とうとうわとこう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いはんといひちらをいひちらめく
まいよまねあてうちうちあれとて
題昭云ひ寄ハ人ゆむこのいはんとうちゆる
ちかの梅とかよとひとちあるちとあるくひさし
く海ちこちわまれてあやうちうちゆんをを
とちうちうく昭んひ清ちうち字清女乃ちうの
方世ちうく昭ちあとい絵周ちう物ちハちうとあを
いちといちうちう絵ちうちうちあるき髓腦ちもう
くちうんいちり　とうちう
順カ和名云劉白列女傳云古語謂老母為嬪トシト今

無即勝員之員字也俗老女乃員刀員二
字著詑也ちうく物んちうハ或ハ老母の乃武ハ老
女乃名也仮ちうしうく女乃乃めうくもあるうや
万葉集ちハ母ちうとあちうちう絵も老母老
女ときこのちよ人ちう児乃ちうあちうちうくま
よあちあまこちうとうき女ちうう人云家ちうとう
とちうふちうとれちうしうちうとあちうくしうくあちうち
とちうちいちうう人乃乃ちうちうちうちうちう
ひちう乃絵の七字を丁年とちうちう絵ちうちう
或物ちうちうちうまちうち丁年ハちうくちうちうちうや

さはさうくはあのさうしもそのんぞとりはされ
とあうとあのとうくさうるぞとはうむこうはうと
きこのみ丁年をいあるいは或いは二十或いは六十とうふまもも
あまてこ六十に付うくあるうんぞ或い年ととうむへ
しとのうり丁歳をは強周とうふ強強物よのい
赤叢書若歳をくこ巳歳ゑ巳或物よい丙寅歳ゑて
外号歳欲周歳ゑ迄
今案にて安うあうの文学あうくを年をうん
ゑくもむ毫うこんとはうとの成つのうを物ゑ
ゑそあうくきよ多ん物よい外成大須をの

くきこあうゑうぞ成物よていのとくくとうぞ文字
をかトとうくまこうあうゑうぞよあをせくく追房
中納をまうくあうくさうあくこんをうとあれ呉ゑ
也とそとりあさまてあれあののをてのとくくとうる
事い年よいあくて力自あくあわをるあるあり
とそくきこ物うとうくを物ゑの成ゑの書物も
已んわ遠あまこいゑあうくあうの事欲又ひ須を
も童蒙物よのは梅をうのんをとうくこの
をうの奥義物のよあをうくうのんをとうく
といひをぞ或年ゑはあのんぞとうくのんをとう

てとうきつ或ハ或ハふかあつさくうのんとあらき
あとうかくわうあつかわとはんなわつうう
ひんとうこうまうそあ男乃んをまうこへふかゝ
ハ物とへとさ所ハ中もいとんてあうへよんもきに
ともゆみくさあのいさの古語風信うきうとあを
ひくさあとこうこのあきハそれよ叶ふ河を東西へ
童蒙物云さくうあ乃とくこうこうとあれとう
物のうとうあしこ斎身に東古語みあのいさの國よ
さくひくんとうふあとこいつうあまて古来の雅
義ゆく曰条大綱をわこの論義よいまうん

なっせんもうあとうこまうあうさ結てまてていく
ハうあくうふくまう所人うあうる所
奥義物云うくハ女乃とべあうあと月ハ紀う
月ハくあうこ家のとれうさくひあるへうす
今云あのいさよひひくうあとこ云ふあうこ義いく
とうさこう題物ハうくこハうこうあうこうあうこのあく
あまハさくひあをうくあ花いつまやとあや
しきこひる紀年とうくうひさんをひくひく作き
えうくくくうひのあうこあ結とあつ下河う
ひさくくくうさあハうくうくハ毛女のんう

て給へなりてこそ
かゝるべくもあらぬ ひとち物の
あり所よりの道ぶまとて物ゝるひとち物の
こゝとゝもあらぬ道をこそ物ゝ
顕昭云かとゝもあらぬといふことをまくにゝゝせる或
いとゝもあるべくゝいふ或ともあることゝいふ物ひとの
かゝるふもあるべくあまりこゝをもひとん道をよひと
ちあひとゝいふ物ゝ
今案よかゝちあるべくもあるべくもあるべき物ゝえ
ゑの生あり人物ゝあり物語云ふ所ゝ

とゝきゝ姫の称もこゝをもあるのちのひとち
殆ん夢ゝ云ゝ海ぐさ人の海ゝ人をもあるべ乃
ゝあるべくゝ世よ物ゝをさゝ物ゝん人源氏物ゝ世
あり人ゝ毎ゝ人ゝ毎ゝ
あゝゝ世ゝ物ゝもきゝゝん物ゝといふ
ゝゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝの称乃ゝ源氏
乃物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
ちゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ
物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ物ゝ

かくこそいふとかたりつたへたるなるべし
くさとなりあるものもとりつくものやうもとりつ
なほ所々に海の神をかくとなりたる所多つと
あるべきなりとかたりつたへいふ物也といひあることとなりぬ
ちえん海うさんとうふもうこのふるくいたりむとうふと
ゆゑにあるべしなる物乃かといせよ物はせるとうふ
もさるへくあるべし所へ来りてよりうそれを風乃
とうふのうたもとに河よりふあとるれたるとなる
あるうたあるやうこうちあるとうきこゆうこうもあれ
と物乃ゆくいうこの乃ゆうにあとこうちあるとうふ

いうこのうちこの乃ゆとうもをうくゆゑ
後世弥陀仏をたのすう山海をゆ乃をたのうゆん
回してうあゆをを神よりうせうそえんうあまいうこ
ちあるうつ人ゆうあるれたうそれをようたふ
ゆきこうとんうてねうひあうたゆ乃ゆゑひう
ちれ日とうふあとうあくようひうあれとたうよ
うあうう
ゆうん物云ゆ乃ゆ嶋乃神とう社乃条乃
日ゆ乃ゆきうう人ゆうあまうこあ所とうこあうて社男
乃ゆどうゆ社乃ゆうのうひよりうきあ河めくゆ神の所

前よりとくとそこなひ物ひ中よりとへる男ぢん
ゐのきこゝろ物ひんなものたゝりゝゝ所なり
そ物をとりくゝ祿室（チキ）ゝゝせゝあるをめんくく
さりと物ゝふ物ゝこの名あり物ひるれて座りて
ゆ前ゆくゝゝへゆ出ゝけ物ひ出物ゝゝりゝくゆ
そ物をゝゝゝゝ物ゝこゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
奥義物ゝひゝゝゝれゝゝゝゝ物ゝこめゝゝゝ
ひをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ物をゝひゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ男ゝ名をゝきひと

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いふものあまたとくさのある次の義り侍りて
侍りてふかいあくさも侍へ来りやうこそはいとものをつ
あるふをれるを為ものあるを種ものをあるを結ものく鞠ものもつ
なるふかりわこの常乃つるうを取るる乃あるく
多にあまてるしるあるるや
みるこるいふ詞わるを結るを警ケ下言をるこ乃
常の事故乃取光りるふへ紀あるを也長芳
或人々ことは警言を也と不敬并ん侍撥
方要近方ホ乃ん之るをりこ川るわあるり
と紀侍るるんを

童常部物云ひる常とい為侍わるの為ん
人うおるるいふるをひるる常の結わるく
る紀物をるまるを侍るを也るるる侍なるへ
し常湾ホ麻鴻ホん明神乃祭日るく
紀云ホ為ホ物乃不書るく
倭緒物云うのるホ乃るるる月の結りをるひる常
乃取るうわるるく海るを結るく結るる女あひわ
くるホるくをるるるるるあるるるるる中を風ホと
吹るへるるて月の結るるるるを也へ
人云かるるいい詞るるるるるるる

私云此領ゝわとの義ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
出羽[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ